

情報化時代の課題

白鷗大学法学部教授
白鷗大学総合図書館長

蘇田三千穂

日本の情報化が始まって、まだ30年余りしか経っていないそうだが、近年の情報技術の進歩は目覚ましく、インターネットは、アフリカとアジアの一部の地域を除けば、ほぼ全世界の国々と接続することができ、携帯電話に至っては世界第2位の普及率を誇っている。勿論、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等のメディアもますます健在で、朝から晩まで、膨大な量の情報を発信し続けている。誰でも情報の入手には事欠かないといつても過言ではない。必要な情報を必要なときに必要なだけ、迅速かつ容易に入手できるのは情報化の利点であるといえるかも知れないが、一方では、危うさをはらんでいることも事実だ。

つい先日、東京・山手線の電車内でのこと。女子学生と思われる二人が大きな声で話をしている。「ねえ、ねえ、宿題のレポートどうした? 私、まだ書いてないんだけど。」「私はさっき出しました。」「へー、ずいぶん早いわね。」「インターネットで調べたら、丁度テーマと同じ題名の資料が見つかったから、そっくり頂いちゃった。」「へー、それは良かったねエ」……聞くともなく聞いていたのだが、安直に他人の意見を取り込んでしまう態度に、後味の悪い思いがしたのを憶えている。

一般論として、情報量が増大することは歓迎すべきことだといえるかも知れない。だが、それは同時に、情報の選択という重い負担を背負い込むことでもあることを忘れてはならない。それというのは、情報というものは全てが正しいとは限らないから、それを受け取る側で選択をしなければならないし、更には、選択された情報を具体的な場面で使用するとなると、それを分析し評価する必要があるからである。それは、情報を鵜呑みにすることの危険と情報を安直に利用することの危険を回避するための不可欠な

プロセスである。それにも拘らず、情報化した現代社会は、情報の量的拡大に専心する余り、情報を選択し分析し評価するプロセスの重要さに無頓着になっている。そのために、現代社会は、極言すれば、情報の洪水に押し流され、その方向を見失いつつある。真の情報化社会を実現するためには、このプロセスが実践されなければならないであろう。

このようなプロセスの実践には勝れた洞察力が必要だと思われる。問題はその洞察力をどのようにして培うかである。その答えに到達する近道は存在しないであろう。もしそうであるならば、例え回り道であっても、物事の基本に立ち返って、オーソドックスな方法を選ぶべきであろう。それは、端的にいえば、書物をたくさん読むことである。しかも、当面の目的に直結したものではなく、それとは無関係なものを読むべきだということを強調したい。実利的なものばかり読んでいたのでは優れた洞察力を培うことができない。文学作品など実利を超越したものと関わってこそ物事を深く見ることができると思う。ドイツ文学者・高橋健二氏は、文学の



働きについて、「人間の頭とハート、理性と感性、思考力と空想力を調和融合させ」、「非人間的になりかけている近代人に…全人間性を回復させる」と述べている（高橋健二・吉田精一編著「文学入門」小峯書店）。それは、目前の利害得失に左右されない、豊かな人間性を回復することの重要性を示唆していると思う。同氏が「非目前的効用」と称するこのような文学の働きは、洞察力を培うのに極めて有力であると思う。

青少年の活字離れが社会問題となって久しい。状況は改善されたのであろうか。最近の新聞報道

（日本経済新聞平成15年2月8日朝刊）は、文部科学省の2001年度のデータに基づいて、一斉の読書活動に取り組む学校が急増していると報じている。それによると、全国の公立の小学校の8割、中学校の6割、高等学校でも2割5分程度がそれに取り組んでおり、2年前より大幅に増えたとしている。読書の重要性を反映した好ましい傾向だと思う。これが切っ掛けとなって、静かな読書ブームが起こるならば、より充実した情報化社会が形成されるに違いない。

PRACTICE MAKES PERFECT

English Instructor
Helge S. Maruyama

Sporting activities require practical skills that can only be developed through frequent training and practice. Did David Beckham and Yawarachan master their techniques by watching videos of other sports legends? Did Tiger Woods and Ichiro perfect their swings by reading books and writing reports about ideal hitting angles and stances? Did Ian Thorpe and Naoko Takahashi achieve record-breaking speeds by listening to lectures about physical conditioning? And what about people like us - did we learn how to ride a bicycle through videos, books, and lectures? Although the library and classroom provide useful theoretical knowledge and background information for acquiring such skills, these surroundings cannot replace actual experiences on the field.

Speaking a foreign language, like English, is an activity that is not unlike a sport. English conversational skills can only be picked up by practicing regularly. Practice in this case refers to speaking; not reading, writing, watching, nor listening. There's no doubt that reading English classics, writing English commentaries, watching English movies, and listening to English classes will enhance one's knowledge of the English language. However, knowing English is not the same as speaking English, just as much as understanding basketball does not mean you can play basketball.

Yet many Japanese believe that knowing a lot of English is necessary for speaking English.

習うより慣れよ

白鷗大学女子短期大学部専任講師
ヘルゲ 丸山

スポーツ等は、継続的なトレーニングや練習を通してのみ上達する事が出来る実践的技術を必要とします。ベッカムや“柔ちゃん”は他の伝説的なスポーツ選手のビデオを見る事によって、自分達のテクニックをマスターしたのでしょうか？タイガー・ウッズやイチローは、理想的なヒッティングアングルやスタンスについての本を読む事や、レポートを書く事によって、自分達のスwingを完璧なものにしたのでしょうか？アン・ソープや高橋尚子は体のコンディショニングについての講義を聴く事によって記録破りのスピードを達成したのでしょうか？そして私達のような一般人の場合はどうでしょうか？私達は自転車の乗り方をビデオや本や講義を通して身につけたのでしょうか？図書館や教室は、その様な技術を習得するための役に立つ知識や情報は提供してくれるけれども、これらの場所は実際の体験の替りにはなりません。

英語の様な外国語を話す事は、スポーツをする事と余り変わりはありません。英会話の技術は、頻繁に練習する事によってのみ、上達する事が出来るものです。この場合の練習とは、読む事でも書く事でも、観察する事でも聞く事でもなく、“話す”という事を指しています。英文の古典を読む事、英文でコメントを書く事、英語の映画を見る事、そして英語の授業を受ける事は、その人の英語の知識を高めるであろう事は確かです。しかしながら、英語を知るという事は、英語を話す事と同じではありません。それはバスケットボールを理解する事が、バスケットボールをするという事ではないとのと同様です。

しかし、多くの日本人は、いまだに英語を話すためには、沢山の英語を知る事が必要であると信じています。そんな事は全くありません。ほんの

Nothing can be farther from the truth. With a few simple words and some initiative, you can express yourself in English. You don't have to speak flawless English to communicate. People think that they need an extensive knowledge of English because they're afraid to make mistakes when they speak. But you can only improve your speaking skills by trial and error.

Practicing English with your teachers and classmates may at first seem embarrassing and frustrating, similar to how a novice snowboarder feels after spending half the season covered with snow. Fortunately, you will gain more confidence and command of the language by speaking English regularly. Once you get the hang of it, speaking a foreign language can be as enjoyable as any sport. Don't forget, practice makes perfect!

少しの単語と、率先して話す事によって、英語で自分の考えを伝える事が出来るのです。コミュニケーションを計るために完璧な英語を話す事は決して必要ないのです。人は話す時に、間違う事を恐れるが故に、英語の知識が豊富でないといけないと思い込んでいます。そうではありません。人は試行錯誤 (Trial and Error) によってのみ話方を上達させる事が出来るのです。

教師やクラスメートと英会話の練習をする事は、初心者のスノーボーダーが、シーズンのほとんどの期間を、雪まみれになって過ごす時に感じるのと同様に、最初は、決まりが悪かったり、フラストレーションがたまったりするかも知れません。幸いにも常に英語を話す事によって、今以上に言葉に対する自信と、それを使いこなす力を身につける事が出来るでしょう。外国語を話す事に慣れれば、スポーツと同じ様に楽しい事になるでしょう。だから忘れずに、“習うより慣れろ！”

図書館ニュース

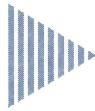
■ 入館ゲートが変更になります

図書館入館ゲートが学生証（ICカード）認証式ゲートに変更になりました。

※図書館の入館には学生証が必要になります。



— 入館ゲート —



学生証をかざすとゲートが開きます

■ 有料プリントアウトについて

オープン利用コンピュータ室・図書館（ワークステーションラウンジ）・進路指導部でのプリンタへの出力が有料となりました。（2003.4.1より）



新着図書 ピックアップ

| | | | |
|-----------|---|-----------|---|
| 019.2/SA | 「心の扉をひらく本との出会い」 笹倉剛著 北大路書房 | Y5/HI | 「実習に行くまえに知っておきたい保育実技」 久富陽子編、久富陽子〔ほか〕共著 萌文書林 |
| 069.02/BU | 「ぶらり東京の博物館めぐり」 Burari 倶楽部編 池田書店 | 377.6/MA | 「ホームステイわくわく留学」 REF留学教育フォーラム編、松岡昌幸著 三修社 |
| 141.5/NO | 「「超」発想法」 野口悠紀雄著 講談社 | 383.8/KA | 「食べるアメリカ人」 加藤裕子著 大修館書店 |
| N5/BI | 「ビジュアル・ワイド 江戸時代館」 小学館 | 493.18/KA | 「大学生からの成人病の予防」 片岡幸雄〔ほか〕著 学術図書出版社 |
| 293/AR | 「ピーターラビット紀行」 新井満、新井紀子著 河出書房新社 | 588.09/KI | 「「バーモントカレー」と「ポッキー」」 岸本裕一、青谷実知代著 農林統計協会 |
| <hr/> | | <hr/> | |
| 316.1/MA | 「インターネットの憲法学」 松井茂記著 岩波書店 | 601.1/KE | 「競争力強化のための6つの戦略」 経済産業省編 経済産業調査会 |
| 320.34/MA | 「ニュースがわかる法律用語の本」 横井信吾、柳井健夫、内海徹著 自由国民社 | 673.3/YA | 「売れる売れる！インターネット営業戦略」 山田英司著 中経出版 |
| 327.9/OK | 「アメリカ連邦最高裁判所（制度のメカニズム；1）」 大越康夫著 東信堂 | 701.1/AG | 「中身のない人間」 ショルジョ・アボンペニ著、岡田温司、闇巣宗吉、多賀健太郎訳、人文書院 |
| 329.5/KA | 「アフガニスタン・国連和平活動と地域紛争」 川端清隆（著） みすず書房 | 767.8/KI | 「タイアップソング・マーケティング」 岸本裕一、田中達彦著 同文館出版 |
| <hr/> | | <hr/> | |
| 332.1/SHI | 「痛みの先に何があるのか」 島田晴雄、吉川洋著 東洋経済新報社 | 810.49/MI | 「おもわず人に話したくなる「日本語」の本」 雅孝司著 PHP研究所 |
| 335.21/HO | 「誰かに教えてくなる社名の由来」 本間之英著 講談社 | 837.8/HA | 「言ってはイケナイ英語」 原田高志著 ノヴァ |
| K47/HO | 「ビジネスに役立つ思考の技術」 本田哲夫著 オーム社 | 933/TA | 「ハリー・ポッター物語への旅」 鷹井潤、古田島綾子編著 竹書房 |
| 366.5/DA | 「気がつくと机がぐちゃぐちゃになっているあなたへ」 リズ・ダベンポート著、平石律子訳 草思社 | E/AI | 「黒ねこのおきゃくさま（世界傑作童話シリーズ）」 ルース・エインズワース作、荒このみ訳、山内ふじ江絵 福音館書店 |



図書館には投書箱が設置されています。お気づきの点やご希望等ございましたら、ぜひ意見をお寄せください。また購入希望のリクエストも受け付けています。リクエストのあった資料は図書館にふさわしい資料か選定後の購入となります。何か気になる資料がございましたらぜひご利用下さい。

平成15年4月1日 発行
図書館だより編集委員会
白鷗大学総合図書館
〒323-8585 栃木県小山市大行寺1117
(0285)22-9737 (直通)
ホームページ <http://www.hakuoh.ac.jp>
印 刷 (株)尚文堂印刷所